

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児教育課程論 Curriculum Theory for kindergarten		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECBE1011	1年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
講義	2		中原 久子			○
実務家教員 の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	乳幼児の保育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、「教育課程」「保育課程」を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を学ぶ。					
到達目標	(1)-1 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。					
	(1)-2 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。					
	(2)-1 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。					
	(2)-2 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。					
	(2)-3 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。					
	(2)-4 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。					
	(3)-1 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。					
	(3)-2 “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼稚園教育の基本・目標及び今日の幼児教育の在り方について	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	2	幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”について	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	3	幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取扱いについて	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	4	「教育課程」「保育課程」について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間

	5	「教育課程」「保育課程」から「指導計画」作成の基本とその方法を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	6	乳児の特徴と指導計画について学ぶ(0～1・2歳児)	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	7	3歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	8	3歳時の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	9	4歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	10	4歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	11	5歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	12	5歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	13	幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントと PDCA サイクルについて理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	14	指導計画と教育課程・保育課程の評価について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	15	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園・保育所の要録について学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
成績評価	定期試験 (21%)、課題・レポート (17%)、指導案 (12%)、教材作成 (7%)、授業への取り組み (12%)、グループワーク・グループ討議 (12%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (19%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	提出課題にコメントを添えて返却する					
テキストおよび参考文献	<p>テキスト: ・幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)</p> <p>参考文献: 『保育課程論』加藤敏子・岡田耕一 編著 (萌文書林)</p>					
メッセージなど	<p>幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育課程、全体的な計画の意義やその成り立ちを理解し、年間の指導計画や、月や週の指導計画、年齢ごとの子どもの発達や様子などに触れながら、“保育の連続性”について学んでいきましょう。</p> <p>幼稚園教諭二種免許状：必修科目</p>					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (関心・意欲・知識・理解・思考力)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (判断力・表現力・問題解決力)	7%
(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・思考力・表現力)	5%
	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度・思考力・表現力)	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (関心・意欲・知識・理解・表現力)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・知識・理解・表現力)	7%
(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート (関心・意欲・態度・知識・理解)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・知識・理解)	5%
(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案 (関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
	ほぼ完璧な教材を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた教材を作成できる。	最低限の基本を踏まえた教材を作成できる。	作成できていない。	教材作成 (思考力・判断力・表現力・創造性)	7%

(2)-4 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
(3)-1 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議(関心・意欲・理解・表現力・創造性)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・理解・表現力・創造性)	7%
(3)-2 “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧に指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート(関心・意欲・理解・思考力・表現力)	5%
	ほぼ完璧に指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	指導案(関心・意欲・理解・思考力・表現力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児指導法 Infant Teaching Method		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1012	1年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
講義	2		中津 愛子			
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	保育内容の指導法（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の基本を学び、5領域のねらいが総合的に達成されるために 幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的に指導するという幼稚園教育の基本について学ぶ。 子どもの興味・関心や発達段階に応じて指導するための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。					
到達目標	(1)-1 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。					
	(1)-2 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。					
	(1)-3 幼児理解に基づく評価について説明できる。					
	(1)-4 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。					
	(2)-1 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。					
	(2)-2 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。					
	(2)-3 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。					
	(2)-4 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。					
	(3)-1 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。					
	(3)-2 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。					
	(3)-3 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	幼児期の特性を踏まえ、遊びを通して指導するという幼児教育の基本となる考え方を学ぶ。			復習プリント	2時間
2	子どもが身近な環境に関わり、発達に関わる経験をどのように行っているのか、保育現場の映像を観て理解する。	事前配布資料を 読んでおく	2時間	復習プリント	2時間	

	3	子どもの主体的な活動が発展するための環境構成の意義について、保育場面の映像を通して理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	4	環境を構成する人、物、自然等の要素と教材の工夫について、グループ討議を行ない、理解を深める。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	5	子どもの育ちと5つの領域の「ねらいと内容」のつながりを学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	6	遊びの展開を考慮した援助の基本について、保育場面の映像を通して理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	7	幼稚園の教諭にインタビューを行い、子どもの生活・遊びに関わる教師の役割、クラス運営の実際を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と活動のつながりを理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	9	幼稚園と小学校が連携して行っている活動実践を観察し、小学校への接続が円滑に行われるための重要事項について学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	10	保育現場の映像を通して幼児教育における教育課程・指導計画の基本を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	11	長期の指導計画と短期の指導計画を理解し、子どもの発達に応じて指導計画を立案し教材を活用するための基本を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	指導計画の課題レポート	2時間
	12	指導計画の作成における環境の構成と教材の工夫について理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	模擬保育の教材作成	2時間
	13	模擬保育の実践の準備を行ない、子どもの活動を見通した具体的な援助方法についてグループ討議をし、教材の作成や選択を行なう。	事前配布資料を読んでおく	2時間	模擬保育の練習	2時間
	14	グループで模擬保育を実践する(ビデオ録画の方法を身につける)。	事前配布資料を読んでおく	2時間	模擬保育の実践後の感想レポート	2時間
	15	録画映像を再生して模擬保育の振り返りと評価を行ない、改善点を話し合う。	事前配布資料を読んでおく	2時間	模擬保育の指導計画の修正	2時間
成績評価	定期試験 (40%)、課題・レポート (30%)、授業への取り組み (16%)、グループワーク・グループ討議 (14%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。					
テキストおよび参考文献	テキスト：幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』チャイルド本社 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社					
メッセージなど	グループ討議や模擬保育を取り入れたアクティブラーニング型の授業です。遊びを通して指導するとは何かを考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、工夫もできる。	環境構成の基本は身に付け、教材の工夫もできる。	工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。	身につけていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	8%
					グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度)	7%
(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	30%
(3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。	導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。	模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。	模擬保育を実践していない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	8%
					グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度)	7%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health)		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC2011	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	2		佐伯 里英子			
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。					
到達目標	(1)-1 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。					
	(1)-2 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。					
	(2)-1 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。					
	(2)-2 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。					
	(3)-1 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。					
	(3)-2 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。					
	(3)-3 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。					
	(3)-4 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。					
	(3)-5 運動あそびと「幼児教育のキーワード」10項目の内容との関連性を述べるができる。					
	(4)-1 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べるができる。					
	(4)-2 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べるができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼稚園教育要領「健康領域」の今日的意義			健康領域についてわからない用語を調べる。	2時間
	2	幼稚園教育要領のねらいについて	保育指針幼稚園教育要領「健康領域」ねらいを読む。	2時間	保育指針幼稚園教育要領のねらいをまとめる。	2時間
	3	幼稚園教育要領の内容等について	指針要領「健康領域」3歳児未満の内容を読む。	2時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2時間

4	健康領域における幼児期の発達の特徴 —保育場面の映像をもとに子どもの発達や状況の分析をする—	前回までの資料を読んで復習しておく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
5	乳幼児期の安全（リスクとハザードについて）	前回までの資料を読んで復習しておく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
6	自身の生活習慣と子どもの生活習慣をつなぐ	前回までの資料を読んで復習しておく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
7	幼児の生活習慣（睡眠を中心に）とそれを支える保育者のあり方について	健康領域の内容（1）～（5）を読んでおく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
8	保育場面の画像をもとに、生活習慣（食事・排泄を中心に）とそれを支える保育者の役割について	健康領域の内容（6）～（10）を読んでおく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
9	生活習慣の自立に向かう保育のあり方について	健康領域の内容(7)を読んでおく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
10	幼児期における運動あそびの重要性 —保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する①—	前回までの資料を読んで復習しておく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
11	幼児期における運動あそびの重要性 —保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する②—	前回までの資料を読んで復習しておく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
12	保育実践報告から学び、保育の今日的意義を考える①	前回までの資料を読んで復習しておく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
13	保育実践報告から学び、保育の今日的意義を考える②	前回までの資料を読んで復習しておく。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
14	対話的保育の今日的意義と運動あそびへの応用	前回までの資料を読んで復習しておく。	2時間	発表資料を作成する。	2時間
15	運動場面での指導方法と安全管理について	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	災害時の保育について考える	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
17	運動や運動あそびにおける「楽しさの質」の発達段階	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
18	発達段階に応じた運動あそびを理解する（乳児期前半を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
19	発達段階に応じた運動あそびを理解する（乳児期後半を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
20	発達段階に応じた運動あそびを理解する（2歳児から3歳児への移行の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
21	発達段階に応じた運動あそびを理解する（3歳児の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
22	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそびを理解する（4歳児の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間

	23	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび(5歳児の時期を中心に)を理解する	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
	24	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の教材作成と指導案作成	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	指導案の修正または作成。	2時間
	25	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践の準備	指導案の作成。	2時間	指導案の修正または作成。	2時間
	26	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践と考察	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
	27	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方を考える(段階Ⅰの取り組みを中心に)	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
	28	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方を考える(段階Ⅱ・Ⅲの取り組みを中心に)	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
	29	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方(段階Ⅳ・Ⅴの取り組みを中心に)を考える	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2時間
	30	幼稚園教育から小学校教育への「接続」を考える	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	全範囲の資料を振り返る。	2時間
成績評価	授業への取り組み(30%)、課題・レポート(20%)、定期試験(50%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートは翌週にコメントを書いて返却する。試験については必要に応じて次回に解説を行う。					
テキストおよび参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) ・吉田伊津子・砂上史子・松寄洋子『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 健康』光生館 					
メッセージなど	<p>乳幼児期の健康に関する知識や考え方などを学び、具体的な場面で子どもの主体性や自立を支援することのできる基礎的な力をつけていきましょう。</p> <p>幼稚園教諭二種免許状：必修科目</p>					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	ほぼ完璧に理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	大きな間違いなく理解し、説明できる。	最低限の基本は理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力)	5%
(1)-2 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力)	10%
(2)-1 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。	ほぼ完璧に理解し、具体的に述べることができる。	大きな間違いがなく基本を理解し、述べられる。	最低限の基本を理解し、述べることができる。	述べることができていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	10%
(2)-2 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。	幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解し実践できる。	基本的な触れ合いの中での保育のあり方を理解し、実践できる。	対話的な保育の意味を自分なりに理解し、実践できる。	実践できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(3)-1 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。	評価の考え方を説明することができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(3)-2 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。	ほぼ完璧に留意点が示され、指導案を作成できる。	ある程度の留意点を理解し、指導案を作成できる。	留意点をいくつかあげて、指導案を作成できる。	指導案に留意点が反映できていない。	授業への取り組み (知識・思考力・判断力・創造性)	10%
(3)-3 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	ある程度、説明できる。	段階的な指導があることは説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・判断力)	10%
(3)-4 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。	自分の問いを出し、他者と協議し、発表できる。	他者と問いを出し合い、発表できる。	他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。	他者との意見交換・検討ができない。	授業への取り組み (意欲・思考力・表現力・協働性)	5%
(3)-5 運動あそびと「幼児教育のキーワード」10項目の内容との関連性を述べることができる。	ほぼ完璧に関連性を述べることができる。	ある程度関連性を述べることができる。	「幼児教育のキーワード」の項目について列挙できる。	「幼児教育のキーワード」を列挙できていない。	定期試験 (知識・思考力・判断力・表現力)	10%
(4)-1 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。	ほぼ完璧に述べることができる。	大きな間違いがなく、述べることができる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は述べられる。	述べることができていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(4)-2 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べることができる。	子どもの姿や課題について、いくつも述べることができる。	大きな間違いなく、述べることができる。	1点か2点は述べることができる。	述べられていない。	課題・レポート (関心・知識・思考力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Human Relations)		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC2012	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	1	選択	大森 洋子			○
実務家教員 の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。					
到達目標	(1)-1 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。					
	(1)-2 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。					
	(2)-1 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。					
	2)-2 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。					
	(2)-3 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。					
	(3)-1 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	乳児期を取り巻く人間関係の現状と課題について理解する。	現代の子どものおかれている状況を調べておく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	2	保育の基本と領域「人間関係」について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	3	0歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	2時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2時間
	4	1, 2歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間

	5	3歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	6	4歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	7	5歳児の集団生活の中での姿と人間関係の育ちについて実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	8	子どもたちの豊かな人間関係を育む学級経営や集団づくりについて実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	9	園生活の中で人とのかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	10	園生活の中での異年齢のかかわりや地域の人々とのかかわりと援助について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	2時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2時間
	11	人間関係の育ちを支える保護者と保育者の望ましい関係について、事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	12	「人間関係」の育ちを支える保育の構想① 人間関係を育む指導案を作成する。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	13	「人間関係」の育ちを支える保育の構想② 作成した保育案をもとに、指導と援助ポイントについて考え合う。	配テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2時間
	14	「人間関係」の育ちを支える保育の構想③ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んで、自分の考えをまとめておく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
	15	「人間関係」の育ちを支える保育の構想④ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んで、自分の考えをまとめておく。	1時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1時間
成績評価	定期試験（50%）、課題・レポート（20%）、授業への取り組み（30%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	課題はコメントを書き、返却する。 レポートや試験はルーブリック評価の結果を渡す。					
テキストおよび参考文献	参考文献：幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）					
メッセージなど	人として生きていく上で欠かすことのできない人とのかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	課題・レポート (思考力・判断力・問題解決力)	10%
(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み (関心・意欲・態度・表現力)	5%
(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (関心・知識・理解)	20%
(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
保育内容の指導法（環境） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment)		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC2013	2年次	前期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	1	選択	玉木 晃子			○
実務家教員 の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。					
到達目標	(1)-1 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。 (1)-2 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。 (1)-3 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。 (1)-4 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。 (2)-1 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。 (2)-2 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。 (2)-3 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。 (3)-1 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 (3)-2 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 (3)-3 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。 (3)-4 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。 (3)-5 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	環境を通して行う保育の基本を理解する。	授業用プリントを 読んでおく。	2時間	授業の振り返りシ ートに基づき、内 容をまとめる。	2時間

2	子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
3	子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
4	環境を構成する人や身近な動植物とのかかわりについて保育場面の映像から具体的に理解する。身近な生き物をビデオカメラで撮影し、体のしくみや動き、成長過程をタブレットで見せる等、保育場面でのICTの活用を考える。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
5	環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。－身近な素材の収集とおもちゃ製作－	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
6	環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する。－生物の飼育、植物の栽培－	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
7	数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
8	地域の施設やさまざまな情報、行事などに興味や関心が高まるよう情報機器を活用した映像資料を作成する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
9	環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
10	短期の指導計画と長期の指導計画を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
11	指導計画の作成における環境の構成と情報機器・教材の活用について理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
12	幼児期の終わりまで、発達の過程に寄り添いながら、長期的な視点をもって環境を構成していくことを保育映像から理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
13	幼児の周りにおける環境について、その特性や価値を知り、実際の保育のなかで適切に活用できるようICTを活用して教材を作成する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
14	環境とのかかわりを促すアイデアを保育活動に活かした指導案を作成する。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
15	身近な自然に関わる模擬保育を行い、保育環境を改善するための反省と評価を行う。	授業用プリントを読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間

成績評価	定期試験 (60%)、課題・レポート (20%)、教材作成 (11%)、授業への取り組み (9%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ループリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月 告示） 参考文献：酒井幸子・守 功『保育内容 環境』 萌文書林
メッセージなど	子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-3 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-4 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-1 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	5%
(2)-1 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%

(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	3%
(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	2%
(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	3%
(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	2%
(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。	多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%
(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、保育のデザインを工夫する力を身に付けている。	環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education (Language)		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC2014	2年次	通年
講義・演習・実 技・実習・実験	単位 数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	2		竹内 幹雄			
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。 理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。 言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。 言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身につける。					
到達目標	(1)-1 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。 (1)-2 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。 (1)-3 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。 (2)-1 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。 (2)-2 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。 (2)-3 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。 (3)-1 実社会における言葉に関する課題について理解できる。 (3)-2 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。 (3)-3 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを、事例をあげて説明できる。 (4)-1 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。 (4)-2 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	乳幼児期にふさわしい「生活」の保障について理解する。	教科書 P1～5 を読み、考えをテキストにまとめる。	2時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	1時間
2	領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて、理解するとともに、図表にしてまとめる。	教科書 P6～17 を読み、考えをテキストにまとめる。	2時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	1時間	

3	ヒトのコミュニケーションの特徴・非言語から言語への視点から、誕生から3歳ころまでの言葉の発達について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P20～29 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
4	要領・指針で大切にされていることを基に、乳児期の言葉の発達と保育における配慮について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P30～36 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
5	伝え合う言葉、考える言葉の発達、読み・書きの発達の理解を基に、乳幼児期から幼児期への言葉の発達過程をつかみ、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P37～41 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
6	集団保育への参加、クラスの一員としての役割や意識を理解の基に、個と集団との関係のなかで幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P42～43 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
7	仲間関係と言葉、言葉と思考・表現についての理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P43～47 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
8	言葉の楽しさや美しさの理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P48～50 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
9	幼児期と児童文化財について理解を深め、幼児期の言葉の発達過程についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P51～55 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
10	幼児期から児童期の言葉、接続期と言葉についての理解を基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P56～58 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
11	記号や文字との出会い、絵本ともに環境、文字で伝える、を理解の基に、文字環境についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P59～62 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
12	幼児期の読み書き、言葉による伝え合い、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P63～66 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
13	保・小・こ・小の接続で大切にしたいこと、言葉に関する家庭との連携、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉や小学校「国語」との関連性についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また「おてて絵本」で遊ぶ。	教科書 P67～70 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
14	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P71～77 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間
15	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P78～85 を読み、テキストにまとめる。	2時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1時間

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	伝え合う言葉を育むための保育環境、文字との出会いと文字環境、を理解の基に、保育環境と言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P86～94 を読み、テキストに記述する。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
17	保育における絵本との出会い、発達に応じた絵本との出会い、を理解の基に、保育と児童文化財について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。また、読み聞かせのポイントをつかむ。	教科書 P95～96 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	グループの発表、読み聞かせのポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
18	伝え合う言葉を育む環境構成と指導計画、評価と改善、を理解の基に、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。また、紙芝居のポイントをつかむ。	教科書 P97～104 を読み、テキストの図にまとめる。	3 時間	グループの発表、紙芝居のポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
19	遊びや生活に必要な言葉、自分の思いを伝える言葉、出来事を他者に伝える言葉、を理解の基に、乳幼児期の遊びと生活のなかの言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P105～109 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストをまとめ直す。	2 時間
20	遊びを支える言葉、ごっこ遊びをめぐる言葉のやりとり、ルールのある遊びと言葉、を理解の基に、様々な遊びと言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P62～66 を読み、テキスト P5～7 にまとめる。	2 時間	グループ発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
21	言葉のリズムや響きを感じる・楽しむ、様々な言葉遊びを楽しむ、を理解の基に、言葉のリズムや響き・言葉遊びについて、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P114～116 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
22	自分なりの言葉、言葉に対する感受性、を理解の基に、子どもの発達にふまえた遊びや生活と指導援助の実際について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P117～121 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
23	一人一人の特性に応じるために、発達障害（自閉症スペクトラム障害等）について、を理解の基に、領域「言葉」についての特別な配慮や支援を、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P122～125 を読み、テキストにまとめる	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
24	障害のある子どもの保育で大切な考え方について、行為を言葉でなぞる、生活の見通しを示す工夫—登園してからすること、を理解の基に、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や支援について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P126～130 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
25	はじめに、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、個別の指導計画の一例、を理解の基に、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P131～132 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間

	26	海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や支援、家庭や地域・関係機関（医療や福祉、保健等）との連携、を理解の基に、言葉の問題や援助について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P133～138 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	27	言葉の環境と活動、全体的な計画、カリキュラムマネジメント、主体的・対話的で深い学び、を理解の基に、保育計画と評価について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P139～156 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	授業メモをもと に、テキストにま とめ直す。	2 時間
	28	情報革命と社会の変化、グローバル化と英語教育、育つことが期待される姿「言葉による伝え合い」、を理解の基に、子どもが育つ社会の変化と子どもの「言葉」について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P107～114 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	29	言わずにはいられない言葉、みんなの前で話す体験、形だけ整っている言葉、謝ると言う行為と言葉、を理解の基に、実践のなかで考えるべき課題について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P159～164 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	30	聞き手としての保育者、話し手としての保育者、やりとりする保育者、集団生活と言葉、を理解の基に、保育者の関わりについて、ICT を活用して発表し合う。グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P123～129 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
成績評価	定期試験（21%）、課題・レポート（20%）、授業への取り組み（14%）、発表・プレゼンテーション（32%）、グループワーク・グループ討議（13%）					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートや試験にコメントを書き、次の授業時に返却する。					
テキストおよび参考文献	テキスト：『保育内容 言葉』 秋田喜代美・野口隆子 編著 光生館、 『幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）』、『保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）』、『幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）』					
メッセージなど	乳幼児の言葉獲得過程と保育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験からともに考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目、保育士証：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-2 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	8%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・技能・思考力・判断力・表現力)	7%
(1)-3 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	3%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・技能・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-1 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-2 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-3 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きい、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力)	15%
	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きい、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	発表・プレゼンテーション (技能・表現力)	15%
(3)-1 実社会における言葉に関する課題について理解できる。	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	8%
	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	7%
(3)-2 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%

(3-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%
(4-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%
(4-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
保育内容の指導法 (表現Ⅰ(音楽・造形)) Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I)		児童教育学科 初教育学専攻		23ECCC2015	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	2	選択	田中 奏子・大森 洋子			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					
概要	【音楽】豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。					
到達目標	(1)-1 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。					
	(1)-2 表現を生成する過程について理解している。					
	(1)-3 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。					
	(2)-1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。					
	(2)-2 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。					
	(2)-3 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。					
	(2)-4 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。					
	(2)-5 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼児と表現、音楽表現について理解する (オリエンテーション)	テキスト 3P、4P を読んでおく	2時間	授業を振り返り テキストを見て復習する	2時間
	2	音楽を中心とした音楽劇について DVDを視聴して具体的に理解する	テキスト 5P から 7Pを読んでおく	2時間	授業を振り返り テキストを見て復習する	2時間
	3	「表現あそび」を体験し、幼児の感性 と表現について学ぶ。「表現遊び」に おける ICT の活用法について保育場 面の映像から学び、保育構想に活用 するアイデアを考える	テキスト 8P、9P、 14Pを読んでおく	2時間	授業を振り返り テキストを見て復習する	2時間
	4	「音あそび」を体験し、イメージ活動 の基礎を学ぶ。自分たちで作った音 を録音し、音の教材を作成する	テキスト 15P を 読んでおく	2時間	授業を振り返り テキストを見て復習する	2時間

5	「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICTを用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する	テキスト 16P、23P、24P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
6	「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ	テキスト 10P、11P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
7	「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ	テキスト 12P、13P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
8	グループ練習。絵本からイメージする音づくりを通し想像力を高める。	テキスト 17P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
9	グループで創作活動について指導計画を立案する。	テキスト 18P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
10	グループによる創作活動の練習①練習場面を録画し、その映像をもとに改善していく。	テキスト 19P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
11	中間発表を行い、各グループ評価しあう。発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。	テキスト 20P、21P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
12	グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認	テキスト 22P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
13	模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動	テキスト 25P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
14	模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動	テキスト 26P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
15	模擬保育の反省を行なう。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。	テキスト 29P、30P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
成績評価	課題・レポート（41%）、授業への取り組み（50%）、グループワーク・グループ討議（9%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	音楽：振り返りシートに毎回コメントを記入し提出する。				
テキストおよび参考文献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『幼児の音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子他 教育芸芸術社、『うたっておどっっておもちゃ箱 2』鈴木 恵津子 教育芸芸術社				
メッセージなど	この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	2%
(1)-2) 表現を生成する過程について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	2%
(1)-3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	5%
(2)-1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	課題・レポート (知識・思考力)	5%
	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	5%
(2)-2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	課題・レポート (知識・思考力)	8%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	7%
(2)-3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	課題・レポート (知識・思考力)	8%
	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	7%

(2-4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	課題・レポート (知識・思考力)	10%
	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	10%
(2-5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	課題・レポート (知識・思考力)	10%
	知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	10%

概 要	<p>【造形】保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。</p>					
到達目標	<p>(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。</p> <p>(1)-2) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>(1)-3) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>(1)-4) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。</p> <p>(2)-1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。</p> <p>(2)-2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。</p> <p>(2)-3) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>(2)-4) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。</p> <p>(2)-5) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。</p>					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	16	表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する	授業前に配付したプリントを読んでおく	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	17	表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	18	遊びの中の幼児の様々な表現活動を捉え、造形表現の可能性を考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	19	0歳～6歳までの幼児画を観察し、各年齢の発達と表現の特徴を理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	20	身近な素材を用いた表現活動と保育者の援助について実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	描画材料を理解したかどうか復習し感想を書く	2時間
	21	教材や用具・材料等の特性や発達に応じた使い方の実際について、実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	22	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する ①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	23	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する ②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2時間

	24	映像視聴を通して乳幼児の表出、表現の背景や要因を考察し、表現における情報機器・活用法について検討する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	25	小学校の「図画工作」や様々な教科と幼児期の表現・造形教育の関連性や学びの連続性について学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	26	授業から題材を選び、豊かな感性と心を育てる「指導案」を立案する。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	27	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	28	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	29	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る③	模擬保育が出来るよう準備する	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	30	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る④	模擬保育が出来るよう準備する	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
成績評価	小テスト(8%)、課題・レポート(19%)、作品(18%)、指導案(32%)、教材作成(5%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ(10%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(8%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	造形:毎回授業後に振り返りシートに記入。作品ファイルを作成し、授業後に返却し、実習にいかす。					
テキストおよび参考文献	テキスト:幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省) 参考文献:林建造他『領域「表現」』国文書院					
メッセージなど	造形教育は、子どもの豊かな感性と表現を育てるものです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。 保育士証:必修科目、幼稚園教諭二種免許状:必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート (理解・思考力・知識)	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(理解・思考力・知識)	2%
(1)-2) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート (理解・思考力・知識)	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(理解・思考力・知識)	2%
(1)-3) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート (理解・思考力・知識)	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(理解・思考力・知識)	2%
(1)-4) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート (理解・思考力・知識)	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(理解・思考力・知識)	2%
(2)-1) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の表現活動の特性を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違って理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違って理解し、ある程度説明できる。	小テスト (知識・理解・思考力)	8%
	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違って理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違って理解し、ある程度説明できる。	課題・レポート (知識・理解・思考力)	7%

(2)-2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	作品(技能・表現力・創造性・作品の完成度)	18%
	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	指導案(技能・表現力・創造性・作品の完成度)	17%
(2)-3) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。	理解していない。指導案を作成できない。	指導案(知識・理解)	10%
(2)-4) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後、その反省点を踏まえ、改善できる。	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる	計画を練ることができない	指導案(技能・判断力・問題解決力)	5%
	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる	計画を練ることができない	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ(技能・判断力・問題解決力)	5%
(2)-5) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付けている。	ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。	大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている	間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。	知識、技能、指導法を身に付けていない。	教材作成(技能・表現力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児理解と教育相談 Infant Comprehension and Educational Counseling		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECUI2011	2年次	前期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
講義	2		田中 佑弥			
ディプロマ・ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概要	幼児の生活や遊びの実態に即して幼児の発達を理解する。 子どもの臨床的問題について考え、つまずきの要因、親子の支援について学ぶ。 発達上の問題の把握、介入方法の仕方などについて学ぶ。					
到達目標	(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。					
	(2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。					
	(3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼児理解とは何か概要を知る			幼児理解の概要をまとめる。	2時間
	2	幼児理解の必要性・意義について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	3	幼児の生活状況について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	4	幼児を取り巻く環境について知り、その影響について理解する	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	5	親子関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	6	保育者との関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	7	教育相談の意義と関連するカウンセリングの基礎を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	8	カウンセリング技術（受容・傾聴・共感）に基づく子どもとの関わりについて学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間

	9	発達をつまづきとは何か学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	10	発達障害の基本について知り、気づき、対応について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	11	発達の問題への支援方法について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	12	保護者支援の実践を知りその方法を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	13	社会的資源について知り活用方法を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	14	カウンセラーとの協働について実例を元に学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	15	幼児を取り巻く環境の今後について考える	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
成績評価	定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	試験の採点方法と点数をルーブリック評価に基づき示す。					
テキストおよび参考文献	テキスト：横山 洋子 監修 保育の現場で使える文章と言葉がけ 池田書店 参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）					
メッセージなど	幼児理解の必要性を知り子どもたちを取り巻く環境が子どもの成長にどのように影響しているのか教育、支援の実践について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
保育・教職実践演習（幼稚園） Practice of Teaching Profession(Kindergarten)		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECTP2004	2年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	2		田中 奏子 他			
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概要	教育実習と教職に関する既習の科目の知識と技術の統合をはかり、幼稚園教諭として資質能力を高めることを目的に、グループ活動やロールプレイ、地域子育て支援行事への参加などの実践を組み入れ演習形式で授業を行う。					
到達目標	(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。					
	(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。					
	(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション・教育実習の振り返り（自己評価）・教職履修ファイルの記入	教育実習日誌をまとめる	2時間	授業の振り返りとファイルのまとめ	2時間
	2	1年生に対する実習についての話①・模擬保育の準備と練習	事前配布資料を読む	2時間	模擬保育の準備	2時間
	3	1年生に対する実習についての話①・模擬保育	模擬保育の練習	2時間	課題レポート	2時間
	4	地域の子育て支援に関する行事参加の準備①・内容確認とグループ編成	事前配布資料を読む	2時間	グループ課題	2時間
	5	地域の子育て支援に関する行事参加の準備②・企画と立案	グループ企画の立案	2時間	グループ企画の立案と確認	2時間
	6	地域の子育て支援に関する行事参加の準備③・教材作成	グループ企画の教材作成	2時間	グループ企画の教材作成と確認	2時間
	7	地域の子育て支援に関する行事参加の準備④・練習及び流れの確認	グループ企画の練習と準備物の確認	2時間	グループ企画の練習と確認	2時間
	8	地域の子育て支援に関する行事での実践①	グループ企画の練習	2時間	グループ企画の確認	2時間
	9	地域の子育て支援に関する行事での実践②	グループ企画の練習	2時間	課題レポート	2時間
10	地域の子育て支援に関する行事参加の振り返り 実習評価票に基づく今後の課題の明確化 ①	行事の振り返り	2時間	課題レポート	2時間	

	11	実習評価票に基づく今後の課題の明確化②	事前配布レポート	2時間	課題レポート	2時間
	12	1年生に対する実習についての話②の準備	実習日誌のまとめ	2時間	グループでの話の立案と確認	2時間
	13	1年生に対する実習についての話②	グループでの話のまとめ	2時間	課題レポート	2時間
	14	各自の課題への取り組み	事前配布資料を読む	2時間	各自の課題への取り組み	2時間
	15	課題についてのまとめ	各自の課題への確認とまとめ	2時間	課題レポート	2時間
成績評価	課題・レポート (30%)、指導案 (10%)、授業への取り組み (15%)、発表・プレゼンテーション (30%)、毎回の授業の感想・振り返り (15%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振り返りに使用します。					
テキストおよび参考文献	参考文献：幼稚園教育要領					
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	幼稚園教諭としての資質・能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質・能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・協働性・表現力)	15%
	幼稚園教諭としての資質・能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質・能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・協働性・表現力)	15%
(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	30%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	10%
(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	指導案 (知識・理解・技能・判断力・表現力)	10%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	発表・プレゼンテーション (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児と言葉 Infant and Language		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1001	1年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
演習	1		中津 愛子			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					
概 要	領域「言葉」の指導の基礎となる専門的知識を身に付けるため、次の3つをテーマとした授業を行う。 ①乳幼児期の言葉の発達と言葉の意義や機能を学ぶ。 ②言葉に対する感覚を豊かにするための実践の基礎を学ぶ。 ③言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の意義を学ぶ。					
到達目標	(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。 (2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。 (3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 (4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 (5)言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 (6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける (7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて学ぶ。			復習プリント	2時間
	2	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	3	言葉による伝え合いや言葉遊び、文字への関心について学び、映像資料をもとに具体的な子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	4	前言語期のコミュニケーションの発達について、映像資料を通して具体的な子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	5	幼児期の言葉の発達過程について、映像資料をもとに具体的に子どもの姿を通して学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間

	6	映像資料をもとに、保育者の適切な言葉がけについてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	7	保育場面の映像から、言葉を生み出す環境と豊かな体験についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	8	子どもの言語障害について学び、映像を通して実際の子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	9	言葉の遅れがみられる子どもへの援助、保育場面での配慮についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	10	児童文化財としての絵本・紙芝居の実践を行い、言葉の豊かさや楽しさを子どもたちがどのように経験するかをグループ討議する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
	11	ストーリーテリングの実践と、しりとりやなぞなぞなどの言葉遊びの実践を行い、言葉に関する感覚を高めることについてグループ討議を行う。	事前配布資料を読んでおく	2時間	指導計画の課題レポート	2時間
	12	ペープサートの作成とパネルシアターの実演を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	模擬保育の教材作成	2時間
	13	言葉に対する感覚を豊かにするためのICTを用いた保育教材の作成を行う。	事前配布資料を読んでおく	2時間	模擬保育の練習	2時間
	14	幼児の児童文化財の意義を学ぶ。領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	模擬保育の実践後の感想レポート	2時間
	15	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解したうえで、言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするための幼児期の教育の重要性について、発表しあう。	事前配布資料を読んでおく	2時間	模擬保育の指導計画の修正	2時間
成績評価	授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）、プレゼンテーション（30%）、定期試験（40%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。					
テキストおよび参考文献	<p>テキスト：事前配布資料、幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> <p>参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社</p>					
メッセージなど	<p>グループ討議や模擬保育を取り入れたアクティブラーニング型の授業です。</p> <p>幼稚園教諭二種免許状：必修科目</p>					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心、意欲、態度)	15%
(5)言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(6)児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付ける	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	プレゼンテーション (思考力・判断力、表現力)	30%
(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いはなく、おおよそ理解している。	最低限、理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議 (関心、意欲、態度)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児と音楽表現 Infant and musical expression		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1002	1年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	1		田中 奏子			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	表現領域とは何か、幼児の音楽的な表現方法を、発達を理解しながら手あそび、わらべうた、リトミック等の知識を習得する。また具体的な例を例をあげながら、状況に適した表現方法を学ぶ。					
到達目標	(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。					
	(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることができる。					
	(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	表現領域のねらい	領域「表現」について簡単に調べてくる	2時間	課題レポート	2時間
	2	イメージから表現へのプロセス	事前配布資料を読む でくる	2時間	授業の振り返りと レポート	2時間
	3	幼児期における表現活動の芽生え	事前配布資料を読む でくる	2時間	授業の振り返りと レポート	2時間
	4	手あそびの必要性 (1)	手あそびを2つ調べ てくる	2時間	発表できるように 練習しておく	2時間
	5	手あそびの必要性 (2)	手あそびを練習して くる	2時間	授業の振り返りと レポート	2時間
	6	幼児とわらべうた	わらべうたを1つ調 べてくる	2時間	授業の振り返りと レポート	2時間
	7	リズムあそびと表現活動の関わり (1)	事前配布資料を読む でくる	2時間	授業の振り返りと レポート	2時間
	8	リズムあそびと表現活動の関わり (2)	事前配布資料を読む でくる	2時間	授業の振り返りと レポート	2時間
	9	歌うことと聴き合うこと	事前配布資料を読む でくる	2時間	授業の振り返りと レポート	2時間
	10	絵本と音楽	絵本を1つ持参する	2時間	授業の振り返りと レポート	2時間

	11	音楽の基礎知識	事前配布資料を読ん でくる	2時間	授業の振り返り とレポート	2時間
	12	リズムアンサンブル	事前配布資料を読ん でくる	2時間	授業の振り返り とレポート	2時間
	13	テーマから表現する	事前配布資料を読ん でくる	2時間	授業の振り返り とレポート	2時間
	14	表現活動のグループ発表	事前配布資料を読ん でくる	2時間	授業の振り返り とレポート	2時間
	15	なぜ「表現」をするのか考える	事前配布資料を読ん でくる	2時間	授業の振り返り とレポート	2時間
成績評価	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、 グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）35% 課題・レポート（知識・理解）15%					
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	授業計画表内のフィードバック欄に毎回記入をする。 レポートや配布資料を適切に管理し、予習復習に使用する。					
テキストおよび 参考文献	テキスト：表現指導法 上野奈初美 編著 萌文書林 参考文献：幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 保育内容 領域「表現」 堂本真実子 編 わかば社 子どものための音楽表現技術 今泉明美他編著 望月たけ美他 萌文書林					
メッセージ など	幼稚園教諭二種免許：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。	ほぼ完璧に知識・技能を習得できる	大きな間違いなく、知識・技能を習得できる	最低限の知識・技能を習得できる	知識・技能を習得できない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	50%
(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることが出来る。	ほぼ完璧に工夫や展開を考えることができる	大きな間違いなく、工夫や展開を考えることができる	最低限の工夫や展開を考えることができる	工夫や展開を考えることができない	グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）	30%
(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いなくできる	最低限でできる	磨くことができない	課題・レポート（知識・理解）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児と造形表現 Young Children and Plastic Arts Expressing		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1006	1年次	通年
講義・演習・実 技・実習・実験	単位 数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	2	必修	大森 洋子			○
実務家教員 の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概要	幼児の発達段階と造形表現の変化を関連づけながら、幼児期にふさわしい造形表現を援助するための方法を考える。また、幼児の造形表現の基本となる知識・技能、造形活動に関する基本的な素材の扱い方や環境構成等について、自ら作る喜びを味わう中で習得する。					
到達目標	(1) 領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。 (2) 造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 (3) 身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼児の造形についての概要。当授業のねらい。	授業前に配付したプリントを読む	2時間	授業の概要理解について考察し感想を書く	2時間
	2	実際の絵を見ながら、幼児の発達と造形表現の特徴を理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	3	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと素材・道具等について学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	4	幼児のための様々な描画材料の特徴特質を知り、試作する。(クレヨン、クレパス、マーカー)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	5	幼児のための様々な描画材料の特徴を知り、試作する。(筆、竹ペン、色鉛筆、墨、コンテ)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	6	幼児のための様々な描画材料を知り、試作する。(彩液、水彩絵の具、ポスターカラー等)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	7	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、その時期にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間

8	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、その時期にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
9	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する①(クレヨン、クレパスの特質を利用したスクラッチをする。)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
10	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する②(鉛筆、色鉛筆の特質を利用してフロッタージュをする。)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
11	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する③(クレヨン、パス、水彩絵の具の特質を利用してパチックをする。)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
12	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する④(絵の具を用いてデカルコマニーをする。)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
13	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する⑤(彩液を用いてマーブリング、染め紙をする)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
14	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する⑥(絵の具を用いてスタンピング、ドリップングをする)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
15	中間発表:これまでの学んだ技法を活用した幼児の造形活動について考え、発表する。	発表準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
16	前時に考えた造形活動について実際に指導法も含めて実践する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
17	前時に考えた造形活動について実際に指導法も含めて実践する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
18	紙の特徴を理解し、接着や構成を工夫することを意識して作品制作を行う。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
19	紙の特徴を理解し、接着や構成を工夫することを意識して作品制作を行う。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
20	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
21	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
22	廃材などの身近な素材を活用した造形遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
23	廃材などの身近な素材を活用した造形遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間

	24	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	25	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	26	これまでに学んだ教材を活用した幼児の造形活動について考え、発表する。	発表の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	27	前時に考えた造形活動について実際に指導法も含めて実践する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	28	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、その時期にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	29	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、その時期にふさわしい壁面装飾を制作する	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	30	自分たちの制作物を見ながら、子どもの造形活動の評価と援助の方法について考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
成績評価	課題・レポート（知識・理解・思考力）30%、作品（意欲・態度・作品の完成度）30%、教材作成（表現力・判断力・創造性）20%、毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・理解）20%					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験は実施しない（ただし、授業内で小テストを行う） ・授業の振り返りシート提出と、作品ファイルの提出 					
テキストおよび参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）					
メッセージなど	子どもの立場、または保育者としての立場を想定して演習します。実習にも役立つスキルを身につけます。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目 保育士証：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	幼児の造形表現の特徴をほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	いくつかの間違いはあるが、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	幼児の造形表現の特質を全く理解できず説明もできない。	課題・レポート (知識・理解・思考力)	30%
(1)領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	ほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの間違いはあるが、意欲的な感想、振り返りができている。	全く理解できず、意欲的な感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り (関心・意欲・理解)	10%
(2)造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	ほぼ完璧に描画材料を使いこなせる。	大きな間違いがなく描画材料を使いこなせる。	いくつかの間違いはあるが、描画材料を使いこなせる。	全く描画材料を使いこなせない。	作品 (意欲・態度・作品の完成度)	30%
(2)造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	描画材に関してほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	描画材に関して大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの描画材に対しての間違いはあるが、感想、振り返りが出来ている。	描画材に対して間違いが多く、感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り (関心・意欲・理解)	5%
(3)身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	身近な素材をほぼ完璧かつ確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	大きな間違いもなく、身近な素材をほぼ確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材を用いて教材作成ができている。	全く身近な素材を用いた教材ができていない。	教材作成 (表現力・判断力・想像性)	20%
(3)身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	ほぼ完璧に、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	大きな間違いもなく、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	全く身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解できず、自他ともに評価できない。	毎回の授業の感想・振り返り (関心・意欲・理解)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児と健康 Young Children and Health		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1008	1年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
演習	1		佐伯 里英子			
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概要	幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容について理解を深め、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、発達段階を踏まえて検討していく。					
到達目標	(1) 領域「健康」の意義やねらい、内容について説明できる。					
	(2) 幼児期の心と体の成長と運動発達の特徴を説明できる。					
	(3) 安全教育の理解を深め、健康で安全な保育展開を行う知識を身に付ける。					
	(4) 年齢に応じたあそびを理解し、環境設定や子どもとの対話的保育としての関わりをイメージし保育を構想することができる。					
	(5) 幼児教育の今日的課題を模索し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な健康領域（特に運動あそび）の援助・指導の知識を身に付ける。					
授業内容 と 進め方 (前期)	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	「健康領域」について			授業内容の振り返り	2時間
	2	保育所保育指針・幼稚園教育要領のねらいについて	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	3	保育所保育指針・幼稚園教育要領の内容等について	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	4	幼児の健康について①幼児期の健康課題	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	5	幼児の健康について②健康の発達の意味	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	6	幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成①幼児期の発達の特徴	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間

	7	幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成②乳幼児の基本的な生活習慣の形成	事前資料を読む	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	8	健康領域と運動あそびについて①運動あそびの重要性	事前資料を読む	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	9	健康領域と運動あそびについて②運動あそびでの子どもの具体的な姿	事前資料を読む	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	10	健康領域と運動あそびについて③保育場面での子どもの姿の分析	事前資料を読む	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	11	運動あそびでの対話的保育について①子ども中心の保育	事前資料を読む	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	12	運動あそびでの対話的保育について②具体的な保育指導の検討	事前資料を読む	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	13	安全な生活と病気の予防①幼児の安全教育・健康管理	事前資料を読む	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	14	安全な生活と病気の予防②幼児期の怪我の特徴や病気の予防と安全管理	事前資料を読む	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	15	前期のまとめ	授業資料のまとめ	2時間	授業資料のまとめと課題プリント	2時間
授業内容 と 進め方 (後期)	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	16	幼児期の運動発達と身体活動①乳幼児の運動発達の特徴			授業内容の振り返り	2時間
	17	幼児期の運動発達と身体活動②幼児期において多様な動きを獲得することの意義	事前資料を読む	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	18	運動あそびの実践事例から考える①実践事例1	事前資料を読む	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	19	運動あそびの実践事例から考える②実践事例2	事前資料を読む	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	20	食育について①事例紹介	事前資料を読む	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	21	食育について②具体的な指導の検討	事前資料を読む	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	22	子どもと一緒に育つ①事例紹介	事前資料を読む	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	23	子どもと一緒に育つ②グループワーク	事前資料を読む	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	24	おにごっここの指導①発達段階を踏まえた指導	発表課題の準備	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間

	25	おにごっこの指導②模擬保育の検討	発表課題の準備	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	26	ICT機器の活用について	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	27	健康領域での保育指導案の作成① 保育指導案の計画・立案	発表課題の準備	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	28	健康領域での保育指導案の作成② 保育指導案の作成	発表課題の準備	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	29	幼小連携について	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	30	健康領域のまとめ	授業資料のまとめ	2時間	授業資料のまとめ	2時間
成績評価	授業レポート（関心・意欲・態度・理解）20%、課題（思考力・判断力）30%、定期試験（知識・理解・表現）50%					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	課題やレポートはファイルにとじて提出してもらい、後日返却します。					
テキストおよび参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、伊狩芳子『演習 保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林					
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許状：必修科目 子どもの姿をイメージしながら、運動あそびや領域「健康」の基礎知識に触れることで幼児の健康について考えてもらいたい。					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 領域「健康」の意義やねらい、内容について説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	毎回の授業課題 (思考力・判断力)	5%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	定期試験 (知識・理解・表現)	10%
(2) 幼児期の心と体の成長と運動発達の特徴を説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	毎回の授業課題 (思考力・判断力)	5%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	レポート (思考力・判断力)	5%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	定期試験 (知識・理解・表現)	5%
(3) 安全教育の理解を深め、健康で安全な保育展開を行う知識を身に付ける。	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	毎回の授業課題 (思考力・判断力)	5%
	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	レポート (関心・意欲・知識・理解・表現力)	5%
	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	定期試験 (知識・理解・表現)	5%
(4) 年齢に応じたあそびを理解し、環境設定や子どもとの対話的保育としての関わりをイメージし保育を構想することができる。	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	毎回の授業課題 (思考力・判断力)	5%
	ほぼ完璧に理解し、発表することができる	大きな間違いがなく理解し、発表することができる	最低限理解し、発表することができる	理解していない	レポート (思考力・判断力)	5%
	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	定期試験 (知識・理解・表現)	15%
(5) 幼児教育の今日的課題を模索し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な健康領域（特に運動あそび）の援助・指導の知識を身に付ける。	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	毎回の授業課題 (思考力・判断力)	10%
	ほぼ完璧に理解し、発表することができる	大きな間違いがなく理解し、発表することができる	最低限理解し、発表することができる	理解していない	レポート (思考力・判断力)	5%
	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	定期試験 (知識・理解・表現)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児と人間関係 Relationships with infants		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1010	1年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
演習	1		平田 睦美			○
実務家教員 の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼児を取り巻く様々な社会的問題や実際の姿を考察することを通じて、人間関係の発達のために必要な事柄について理解を深める。領域「人間関係」の基本的事項を学習し、人とかかわる筋道を理解し、子どもの姿を捉える視点について学ぶ。					
到達 目標	幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。					
	乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。					
	乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。					
	自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容・内容の取扱いについて学ぶ。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	領域「人間関係」のねらいや内容についてまとめる。	2時間
	2	幼児を取り巻く人間関係と現代的特徴とその社会的背景について理解する。	幼児の人間関係について考えをまとめる。	2時間	授業で学んだことをまとめる。	2時間
	3	自分や周りの人などとの関係性の中から、印象的な場面を取り上げ、グループで紹介し合い、様々な場面の人間関係について考えを深める。	自分の生活の中で印象的な人とかかわりについて考える。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	4	0～2歳児における人とかかわりの姿の映像を通して、人間関係の発達の姿を考察する。	保育所保育指針解説 P101～109、P135～144 を読む。	2時間	映像記録をまとめる。	2時間
	5	幼児期の遊びや生活の映像を通し、その中にみられる人とかかわる力の育ちについてグループで話し合い、理解する。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	映像記録をまとめる。	2時間
	6	自我の芽生えから自立へ向かう過程について映像や事例を通して理解し、保育者の援助について学ぶ。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	映像や事例についてまとめる。	2時間

7	子ども同士のトラブルやいざこざの実際の場면을映像や事例から考え、幼児の発達とどのように関係しているかをグループで話し合い探る。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
8	幼児の仲間意識の形成と協同する存在へと変容する過程をグループで話し合い理解し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
9	個の育ちと集団の育ちについての関係性を映像や事例を通して考察し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	映像や事例についてまとめる。	2時間
10	人とかかわりが難しい子どもに対して、様々な事例を通しその要因について理解し対応について考察する。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	事例から考えたことをまとめる。	2時間
11	幼児が葛藤体験を通し、きまりの重要性を理解したり、気持ちを調整し折り合いをつけたりする過程について理解し道徳性・規範意識の芽生えの関係性について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	授業を振り返り、自分の考えをまとめる。	2時間
12	小学校との連携や地域の様々な人々との交流の意義について考え、実際の事例を通してそのあり方や保育者の役割を学ぶ。	地域との交流はどのようなものがあるか調べる。	2時間	授業を振り返り、要点をまとめる。	2時間
13	保護者との連携について事例を通してグループで話し合い子どもの育ちを支える上で大切であることを理解し、保護者との関係づくりについて学ぶ。	保護者との連携について自分の考えをまとめる。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
14	保育者同士が連携しながら保育にあたることや情報を共有することが子どもの生活に極めて重要であることを理解する。	保育者同士の連携について自分の考えをまとめる。	2時間	授業を振り返り、要点をまとめる。	2時間
15	授業内容を振り返り学びを整理しながら、人とかかわる力を育てる保育者の役割や現代的課題について自分の考えをまとめる	15回の資料を読み直す。	2時間	振り返りシートによりまとめる。	2時間
成績評価	定期試験(50%)、レポート (30%)、授業への取組 (20%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。				
テキストおよび参考文献	<p>テキスト：『幼稚園教育要領』(平成29年3月 告示 文部科学省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、『保育所保育指針』(平成29年3月 告示 厚生労働省)、『幼稚園教育要領解説』(平成30年3月 文部科学省) フレーベル館、『保育所保育指針解説』(平成30年3月 厚生労働省) フレーベル館</p> <p>参考文献：『事例で学ぶ保育内容 領域 「人間関係」』無糖隆 監修 岩立京子 編集代表 萌文書林</p>				
メッセージなど	<p>人が成長し生きていくためには、人間関係が極めて重要な要因です。人間関係の発達のために必要な事柄を映像や事例の幼児の姿から考え、学んでいきましょう。</p> <p>幼稚園教諭二種免許状：必修科目</p>				

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(3) 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(4)自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組 (関心・意欲・態度)	10%
(5)家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
幼児と環境 Toddlers and the environment		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1011	1年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家教員
演習	1		平田 睦美			○
実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概要	幼児を取り巻く様々な環境の教育的意義を理解し、幼児期の環境と関わる力の発達について、事例や映像を通して、幼児の実際の姿から学ぶ。					
到達目標	(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。					
	(2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。					
	(3) 乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。					
	(4) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。					
	(5) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。					
授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	日々の生活を基に環境の関係性についてグループで考え、環境の意味を理解する。	幼児を取り巻く環境について自分のイメージしたことをまとめる。	2時間	生活と環境の関係性についてまとめる。	2時間
	2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について具体的に学ぶ。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2時間	領域「環境」のねらいや内容を復習する。	2時間
	3	現代社会の幼児を取り巻く環境と現代課題についてグループで話し合い理解する。	幼児を取り巻く環境の課題について考えをまとめる。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	4	乳幼児期の発達における環境との関わりについて映像を通して理解する。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2時間	映像記録をまとめる。	2時間
	5	実際の保育現場での保育室の環境構成の映像を見て、グループで話し合い、環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2時間	映像記録をまとめる。	2時間

	6	大学の近辺を散策し、見たり、感じたり、触れたりすることを通し、幼児の生活と関係する環境について考えたことをグループでまとめる。	今時期の自然の様子（草花・虫など）について調べておく。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	7	季節の自然物を使った遊びを体験する。	身近な自然物を使った遊びについて考えておく。	2時間	体験した遊びについてまとめる。	2時間
	8	身近に育つ植物の種類を調べ、これらと幼児の生活や遊びについて考える。	身近に育っている植物について調べておく。	2時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる。	2時間
	9	実際に花や野菜の栽培をし、どのように成長していくのか、そのためにはどのようなことが必要かについて学ぶ。	自分が育てたい花や野菜の育て方について調べ、まとめておく。	2時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる。	2時間
	10	身近な生き物の種類、特性について映像を通して学ぶ。また、幼児の生き物への興味・関心について学び、生き物の不思議さや命の大切さを認識する。	自分が育ててみたい生き物の育て方について調べておく。	2時間	幼児と生き物の関係についてまとめる。	2時間
	11	幼児の自然（自然現象・土・水など）との関わりについて映像や事例を通して学び、自然体験活動の大切さを理解する。	自然と関わる遊びについて考えておく。	2時間	幼児と自然との関わりについてまとめる。	2時間
	12	「数・量・図形」について、幼児が遊びや生活を通して学んでいく方法を理解する。	「数・量・図形」に関わる遊びについて考えておく。	2時間	幼児の「数・量・図形」について学んでいく方法をまとめる。	2時間
	13	乳幼児を取り巻く標識・文字と幼児の生活について考え、どのようなものがあるかグループで話し合い、具体的な場面や活動を学ぶ。	乳幼児を取り巻く標識にはどのようなものがあるか調べておく。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	14	乳幼児期の生活に関係の深い情報や施設などについて調べ、それらにかかわる具体的な活動について考える。	乳幼児期の生活に関係する施設について調べておく。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	15	幼児と環境の関わりについて振り返り、環境の重要性と課題についてまとめる。	15回の資料を読み直す。	2時間	振り返りシートによりまとめる。	2時間
成績評価	定期試験(50%)、レポート(30%)、授業への取組・グループワーク (20%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。					
テキストおよび参考文献	<p>テキスト：『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）、『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月 文部科学省）フレーベル館</p> <p>参考文献：『無藤隆 監修 福元真由美 編集代表 事例で学ぶ保育内容 領域「環境」』 萌文書林</p>					
メッセージなど	<p>子どもたちは周囲の様々な環境に主体的にかかわる中で、発達に必要な経験をします。周囲の様々な環境とはどのようなものなのでしょうか。環境に関わる幼児の姿や、実際の環境を見たり、触れたり、考えたりすることを通して幼児にとっての環境の重要性について学んでいきましょう。</p> <p>幼稚園教諭二種免許：必修科目</p>					

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解する。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	50%
(2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
(3) 乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組・グループワーク (関心・意欲・態度、思考力・表現力)	10%
(4) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
(5) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組グループワーク (関心・意欲・態度、思考力・表現力)	10%